



3月26日、「みやぎSDGs塾」=？=第5ターム前期5回目の講座が河北新報社で開催されました。参加者は他社の実践事例報告やメンバーどうしの交流を通じて学びを深めました。

## 標準コース

「活動宣言」で仲間の思いを知り、新たな関係性を見出す

この日の「みやぎSDGs塾・標準コース」は、第5ターム前期の最後の講座となりました。参加者は学びの締めくくりとして執筆した「わたしのSDGs活動宣言」を持ち寄り、互いに読み合いました。

### グループで考えを伝え合う

参加者は5〜6人のグループに分



互いの「活動宣言」について感想やアドバイスを語り合う「みやぎSDGs塾・標準コース」参加者

かれ、互いの「活動宣言」についてディスカッションを行いました。各グループでは「読者が自分の生活と結び付けて考えられるような内容だと感じた」「SDGs塾での経験が反映されている」といった感想や、「専門的な言葉は読者に分かりづらいのでは」といったアドバイスを伝え合う様子が見られました。

活動後、参加者からは「他のメンバーに読んでもらったことで、伝わりにくい箇所気付けた」などの声が聞かれました。また「他の人の宣言文の内容に自分の業務との関連を感じた」など、今後のSDGs活動に向けて新たな連携の可能性を感じた参加者も多かったようです。

「SDGsとうほく」代表理事の紅邑晶子さんは参加者の「活動宣言」を聞き、「SDGsを『自分ごと』として捉える意識が高まっていると感じた」と話しました。



「みやぎSDGs塾・標準コース」を修了した皆さん

### アンバサダー、新たに14人

参加者は「活動宣言」の提出をもって「みやぎSDGs塾」を修了し、「みやぎSDGsアンバサダー」に認定されます。今回の認定者は14人で、第1タームからの合計は160人。「アンバサダー」らは今後、互いに連携しながらSDGs活動に取り組んでいくこととなります。

## 地域と、他社と、さらなるつながりを

### 実践コース

参加企業の取り組みに触れ、地域づくりを考える

「みやぎSDGs塾・実践コース」では、企業のSDGs担当者や自治体職員などが集まり、地域課題の解決に向けて対話を重ねています。

### 地域と共に歩む企業として

この日の「実践コース」では、仙台市泉区に本社を構える山一地所(総合不動産)の原田千純さんが、地域づくりを重視した同社の取り組みについて紹介しました。

2025年、山一地所は創業50周年を機に泉区の七北田公園の命名権を取得し「やまいちサステナパーク七北田公園」と命名。11月9日には同公園で「やまいち秋のサステナフェスタ」を開催しました。

「この公園に名前を付けたのは、地域と共に歩んでいきたいという弊社の意思表示」と原田さん。イベントの目的について「この場所を起点として地域の方と一緒に泉中央を盛り上



山一地所の取り組みについて話す原田さん

### 参加者の声

#### 異なる視点を得られた

日本旅行東北 渡辺隆太郎さん

毎回の講座で他業種のSDGs活動に触れ、異なる視点を得ることができました。私自身、教育旅行の内容を検討する際にSDGsとの関連をより意識するようになったと感じています。



なった理由として、構想の段階で全社員に働きかけ社内に参加意識を醸成できたこと、関係する事業者や団体などがそれぞれの得意分野で関わったことなどを挙げました。

講話の最後に原田さんは、「地域の発展は不動産業の土台。SDGsの目標の一つ『住み続けられるまちづくり』は私たちの目指すところでもある」と、同社の姿勢についてあらためて強調しました。

### SDGsとうほくコラム

#### 時代に要請されるサステナビリティ経営

東北大学大学院経済学研究科 准教授 高浦康有さん



サステナビリティを考えることは企業経営においても身近なことになってきました。自然環境への負荷を減らし、労働者の待遇を改善することは、今や経営の中核的課題となっているような気がします。筆者が経済学部で学生50人に授業で「会社は誰のものか」と尋ねたところ、ステークホルダー全体と答えた受講生が約45%と、株主と答えた約25%を上回りました。将来のビジネスリーダー候補の若者の意識も随分進んできた感じがします。

会社を取り巻くルールも、従来の株主利益の追求から大きく変化しています。日本の上場企業はサステナビリ

ティに関する情報開示が段階的に求められることになりました。海外ではフランスの「使命を果たす会社」制度のように、社会・環境目的を定款に明記し、達成状況を監視する委員会の設置を義務付ける「新たな会社モデル」が誕生しています。また米国では多くの州で社会や環境への貢献を企業の目的に加えることができる「パブリック・ベネフィット・コーポレーション」(公益企業)などと呼ばれる特別な法人格が認められるようになりました。

企業の存在意義が厳しく問われる時代、私たちは「何のための成長か」という根本的な問いに向き合い続ける必要があるでしょう。

## わたしのSDGs活動宣言



私たちの生活において「安心」という言葉はとても重要です。それをいかに確保し、継続していくかが私たちにとっての命題とも言えるのではないのでしょうか。

私の勤めている宮城県民共済は、「小さな掛金、大きな保障」で病気や怪我、自然災害に見舞われた地域の皆さまに迅速に共済金をお支払いし、安心をお届けできるよう日々活動しております。みやぎSDGs Farmでは普段の業務と異なり、食についての安心を考えさせられました。

### 「安心」をつなぐ

宮城県民共済生活協同組合 田仲俊貴さん



「小さな気づき、大きな発見」へとつながっていくと信じています。

その意識、行動から自分とその周りの人の「小さな気づき、大きな発見」へとつながっていくと信じています。

私だけではなく、自分の子どもたちにもこのエシカル消費を実践させていこうと思います。お菓子を選ぶにしても、どこが産地でこの生産者に貢献しているのか、自分の体に取り入れるものは何で作られていて本当に安心できるものなのか、という日常的にできることを初めての



賛同企業  
募集中!!



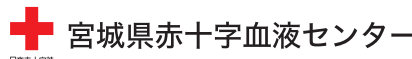
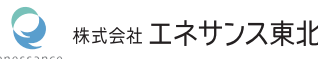
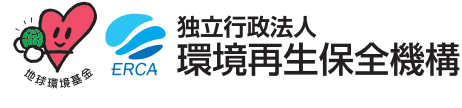
【申し込み・問い合わせ】  
河北新報社営業局  
TEL / 022-211-1318  
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp



### 第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩竈】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、成澤勝将【国分東北】佐藤理紗【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋、花村祐太、野口通南【タイハク】山田妃那、及川達也【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県民共済生活協同組合】田仲俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚綱学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

### 賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩竈 WACO CREATE 仙台高等学校 尚綱学院大学SDGsセンター